

I 令和4年度
厚生労働行政推進調査事業費
障害者政策総合研究事業
総括研究報告書

現状の障害認定基準の課題の整理ならびに
次期全国在宅障害児・者等実態調査の検討のための調査研究

研究代表者 飛松 好子 国立障害者リハビリテーションセンター

研究要旨：本研究は1) 身体障害者認定基準に関する研究と、2) 障害福祉制度・障害統計に関する研究から成る。

1) では、現在、障害者総合支援法の対象となっている疾病のうち、対象要件（治療方法が確立していない・長期の療養を必要とする・診断に関し客観的な指標による一定の基準が定まっている）への適否の判定が保留されている6疾病（骨髄異形成症候群、骨髄線維症、ランゲルハンス細胞組織球症、慢性膵炎、汎発性特発性骨増殖症、肥満低換気症候群）について、先行研究及び各関連学会ガイドライン等に基づき、障害者総合支援法の対象要件への適否の検討に必要な、疾病概要（原因、症状、治療法、予後等）を整理した。

2) では、令和4年生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）の調査票について、本研究班で行ったプレ調査及び国内外の動向調査を基に、改善すべき点を示した。具体的には、調査票の用語の定義の明確化、医療的ケアに関する設問の拡充、国際的に推奨されている設問の導入、就労と就学の状況に関する設問の拡充、支援者に関する設問の追加、障害福祉サービスの利用状況に関する設問の統合と簡素化、必要と感じる支援・就労における希望に関する設問を追加、マイナンバーカードの所持、災害への準備の状況、新型コロナウイルス感染症の流行による影響等に関する設問の追加等を提案した。

研究分担者

岩谷力（長野保健医療大学）、伊藤利之（横浜市総合リハビリテーションセンター）、江藤文夫（日本リハビリテーション連携科学学会）・今橋久美子・清野絵・齋藤崇志（国立障害者リハビリテーションセンター）・須田隆文（浜松医科大学）、三谷絹子（獨協医科大学）、正宗淳（東北大学）、山崎正志（筑波大学）、平井豊博（京

都大学）

研究協力者

安井秀樹（浜松医科大学）、高橋宏（筑波大学）、菊田和宏、滝川哲也、松本諒太郎（東北大学）、宮崎泰司（長崎大学）、赤司浩一（九州大学）、東條有伸（東京医科歯科大学）北村弥生・外里富佐江・北澤一樹（長野保健医療大学）

A. 研究目的

本研究では、過去に実施された障害認定基準の見直しを体系的に整理し、今後の障害認定基準のあり方を明らかにすることを目的とする。また、障害認定基準の見直しの根拠となる障害福祉データの利活用を推進する。併せて、障害福祉制度および障害統計に関する国内外の動向を把握し、施策提言を行う。

B. 研究方法

(1) 身体障害認定基準に関する研究

現在、障害者総合支援法の対象となっている疾病のうち、対象要件（治療方法が確立していない・長期の療養を必要とする・診断に関し客観的な指標による一定の基準が定まっている）への適否の判定が保留されている6疾病について文献レビューを行い、検討に必要な事項を明らかにした。

(2) 障害福祉制度・障害統計に関する研究

令和4年生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）の調査票について、本研究班で行ったプレ調査および国内外の動向調査を基に、改善すべき点を示した。

（倫理面への配慮）

研究者が各所属機関の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

C. 研究結果

(1) 身体障害認定基準に関する研究

6疾病（骨髄異形成症候群、骨髄線維症、ランゲルハンス細胞組織球症、慢性膝

炎、汎発性特発性骨増殖症、肥満低換気症候群）について、先行研究および各関連学会ガイドライン等に基づき、障害者総合支援法の対象要件への適否の検討に必要な、疾病概要（原因、症状、治療法、予後等）を整理した。

(2) 障害福祉制度・障害統計に関する研究

調査票の用語の定義の明確化、医療的ケアに関する設問の拡充、国際的に推奨されている設問の導入、就労と就学の状況に関する設問の拡充、支援者に関する設問の追加、障害福祉サービスの利用状況に関する設問の統合と簡素化、必要と感じる支援・就労における希望に関する設問を追加、マイナンバーカードの所持、災害への準備の状況、新型コロナウイルス感染症の流行による影響等に関する設問の追加等を提案した。

D. 考察

(1) 身体障害認定基準に関する研究

今回疾病概要をまとめた資料は、障害者総合支援法対象疾病について検討する際の根拠となるものである。

(2) 障害福祉制度・障害統計に関する研究

本研究の成果を踏まえて、国が行う「令和4年に生活のしづらさなどに関する調査」に、新型コロナウイルス感染症の流行に関連した設問等、最新の施策に合わせて必要な調査事項が追加されるとともに、回収率の向上を図る観点、他の統計調査との整合性の確保する観点等から、全体の構成

や各設問について、必要な合理化や簡素化が図られた。

第130回社会保障審議会障害者部会(R4.5.27)において、令和4年生活のしづらさなどに関する調査の実施について議論が行われ、資料に本研究の成果を基に調査事項を修正した旨が記載された。

E. 結論

(1) 身体障害認定基準に関する研究
障害者総合支援法の対象疾病について、医学的な概要は明らかとなった。今後は、当該患者の生活実態および支援ニーズの捕捉が課題である。

(2) 障害福祉制度・障害統計に関する研究

令和4年生活のしづらさなどに関する調査実施に向けて改善策を示した。今後は調査票の集計及び公表に向けたとりまとめ方法の検討が課題である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- ・ 北村 弥生, 今橋 久美子, 飛松 好子, 江藤 文夫, 岩谷 力. 精神障害者保健福祉手帳の等級と国連国際障害統計ワシントン・グループの指標の関係 長野県飯山市における調査結果から. 厚生生の指標, 69 (15), 33-39, 2022.
- ・ 北村 弥生, 岩谷 力, 今橋 久美子, 飛松 好子, 外里 富佐江, 北澤 一樹. 飯山市における障害者手帳所持児者の生活活動と福祉サービス利用の実態. 長

野保健医療大学紀要 7 巻 87-135, 2022.

2. 学会発表

- ・ 北村弥生. 健康老人調査における国連の国際障害統計ワシントン・グループの指標と基本チェックリスト「気分の落ち込み」の選択状況 ー長野県飯山市における調査結果から. 社会福祉学会. 2022-10-14/15. 東京.
- ・ 北村弥生, 岩谷力, 今橋久美子, 飛松好子. 障害種別による災害時に経験する困難の違い. 日本リハビリテーション連携科学会. 2023-3-11/12. 埼玉県.

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

なし